

令和2年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人旭川医科大学

1 全体評価

旭川医科大学は、地域医療を担う人材の育成を設置の原点とし、教育・研究・医療・社会貢献等の更なる発展を目指している。第3期中期目標期間においては、グローバルな視点を持ち国際社会でも活躍できる医療人の養成、基礎研究を臨床応用・実用化につなげイノベーション創出を果たすための研究環境整備と研究成果の社会還元、安定した財務基盤の構築を主な目標としているほか、他機関との産学官連携や医療機能連携の推進・強化、外国人の受入れや国外への情報発信の推進、高度急性期医療と先進医療の両立、多職種協働による質の高い医療提供体制の構築等を基本的な目標に掲げている。

この目標の達成に向け、学部入学から臨床研修までの一貫性を持った指導体制を構築するとともに、効率的な病院経営による収支改善を図るなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

一方で、令和3年2月に学内教員による学長選考会議に対する学長解任の請求があり、令和3年6月に学長選考会議から文部科学大臣に対し学長解任の申出がなされている。この間、法人においては、国立大学法人法に則り、理事が学長の職務を代理しているところであるが、国立大学法人法においては、学長が校務をつかさどり、職員を統督するとともに、国立大学法人を代表し、その業務を総理するとされており、学長が職務を遂行できていない状況が強く懸念される。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載10事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 外部資金比率（受託研究）の上昇

令和2年度における受託研究収入は第3期中で最高の約3億373万円（対前年度比約7,623万円増）となり、外部資金比率（受託研究）が1.0%に上昇している。また、治験コ

一ディネート業務の一部を委託し業務支援を受けることで、病院全体としての治験受入可能件数を増加させる体制を構築しており、今後の取組が期待される。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和2年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○ 研究活動における不正行為

医学部元教授が著者である研究論文について盗用及び不適切なオーサーシップを行っていた事例があったことから、教職員への研究倫理教育を強化するなど、再発防止に向けた組織的な取組をさらに実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和2年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ 学部入学から臨床研修までの一貫性を持った指導体制の構築

「医育統合センター」を「地域共生医育統合センター」に改称し、センター業務を円滑に遂行するため副センター長を置くとともに、地域の病院(富良野市)と協定を結び、大学教員と医学部卒業後5年から10年程度の臨床経験を持つ医師を継続的に派遣するセンターを同病院内に開設するなど、地域医療支援体制を構築しており、地域医療に関する一貫性を持った指導体制を強化している。

(診療面)

○ 医療サービスの継続的・安定的提供の体制の構築

パンデミックや大規模災害等によって通院が困難となった状況下でも、医療サービスを継続的・安定的に提供できる体制作りを目指し、オンライン診療、オンライン服薬指導、ドローン(無人航空機)による医薬品配送を連動させた実証実験を旭川市内で実施している。

(運営面)

○ 安全管理体制の整備

コロナ禍での面会禁止中における患者家族へのインフォームド・コンセント指針を策定し、緊急時等、やむを得ず対面でインフォームド・コンセントを実施することができない場合に限り、電話でのインフォームド・コンセントを認めるなど、安全管理体制を整備している。

○ 効率的な病院経営

各種の加算の上位取得及び新規取得を行ったことにより、請求できる診療報酬の金額が大きくなる医療機関別係数が上昇しており、令和2年12月期には係数が全国の国立大学病院の中で1位となるなど、効率的な病院経営による収支改善を図っている。